# オープンアクセスと著作権

JPCOAR　人材育成作業部会

2020年12月1日版

# 本講の内容

## １．著作権とは

（１）著作権法の目的

（２）著作物の定義

（３）著作権に関する主なテキスト等の紹介

## ２．オープンアクセスに関係する著作権

（１）「著作者人格権」と「著作権（財産権）」

（２）著作権譲渡契約と著者の権利

（３）著者の権利とグリーンOA

## ３．機関リポジトリと著作権

（１）リポジトリ登録時に必要な著作権処理の概要

（２）リポジトリ登録同意書の作成

（３）学会・出版社ポリシー確認ツール

（４）学会・出版社への問い合わせ

（５）共著者の許諾について

## ４．ライセンシング

（１）ライセンシングとは

（２）CCライセンス

## ５．著作権の動向に関する情報源の紹介

# 1．著作権とは

（１）著作権法の目的

（２）著作物の定義

（３）著作権に関する主なテキスト等の紹介

# 1. 著作権とは （1）著作権法の目的

著作権法

第一条　この法律は、著作物並びに実演、レコード、放送及び有線放送に関し著作者の権利及びこれに隣接する権利を定め、これらの文化的所産の公正な利用に留意しつつ、著作者等の権利の保護を図り、もって文化の発展に寄与することを目的とする。

著作権法の目的

- 著作権法の目的は「規制すること」ではなく、「文化の発展に寄与すること」
- 著作者の権利と著作物の利用とのバランスを保つための法律である

# 1. 著作権とは （2）著作物の定義

著作権法

第二条　この法律において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

一　著作物　思想又は感情を創作的に表現したものであつて、文芸、学術、美術又は音楽の範囲に属するものをいう。

## 著作物としての研究成果物

- 論文などの研究成果物は、**「著作物」**である
- 研究データなど、「著作物」の定義に当てはまらない研究成果物もあるが、作成者を尊重するために「著作物」に準じて取り扱うことが求められる

※特許等、著作権以外の知的財産権が関係することもある

# 1. 著作権とは （3）著作権に関する主なテキスト等の紹介

- 文化庁（著作権政策） ＊「著作権テキスト」等の教材や著作権講習会の案内もあります
  https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/
- 著作権情報センターCRIC　https://www.cric.or.jp/
- 『大学図書館における著作権問題Q＆A（第9版）』国公私立大学図書館協力委員会
  https://julib.jp/wordpress/wp-content/uploads/2016/07/copyrightQA.pdf
- 黒澤 節男『機関リポジトリと著作権 Q&A』広島大学図書館　＊平成30年著作権法改正前
  http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00023065
- 福井 健策『著作権の必須知識を今日90分で身につける！』慶應義塾大学教養研究センター　＊平成30年著作権法改正前
  https://www.youtube.com/watch?v=0hQBcPTRUog

（上記リンクはいずれも参照：2020-11-22）

# 2. オープンアクセスに関係する著作権

（１）「著作者人格権」と「著作権（財産権）」

（２）著作権譲渡契約と著者の権利

（３）著者の権利とグリーンOA

# 2. オープンアクセスに関係する著作権 （1）「著作者人格権」と「著作権（財産権）」

- 著作権の保護期間＝『著作物』を創作した時点で著作権が発生し、著作者の生存中及びその死後70年間、保護される

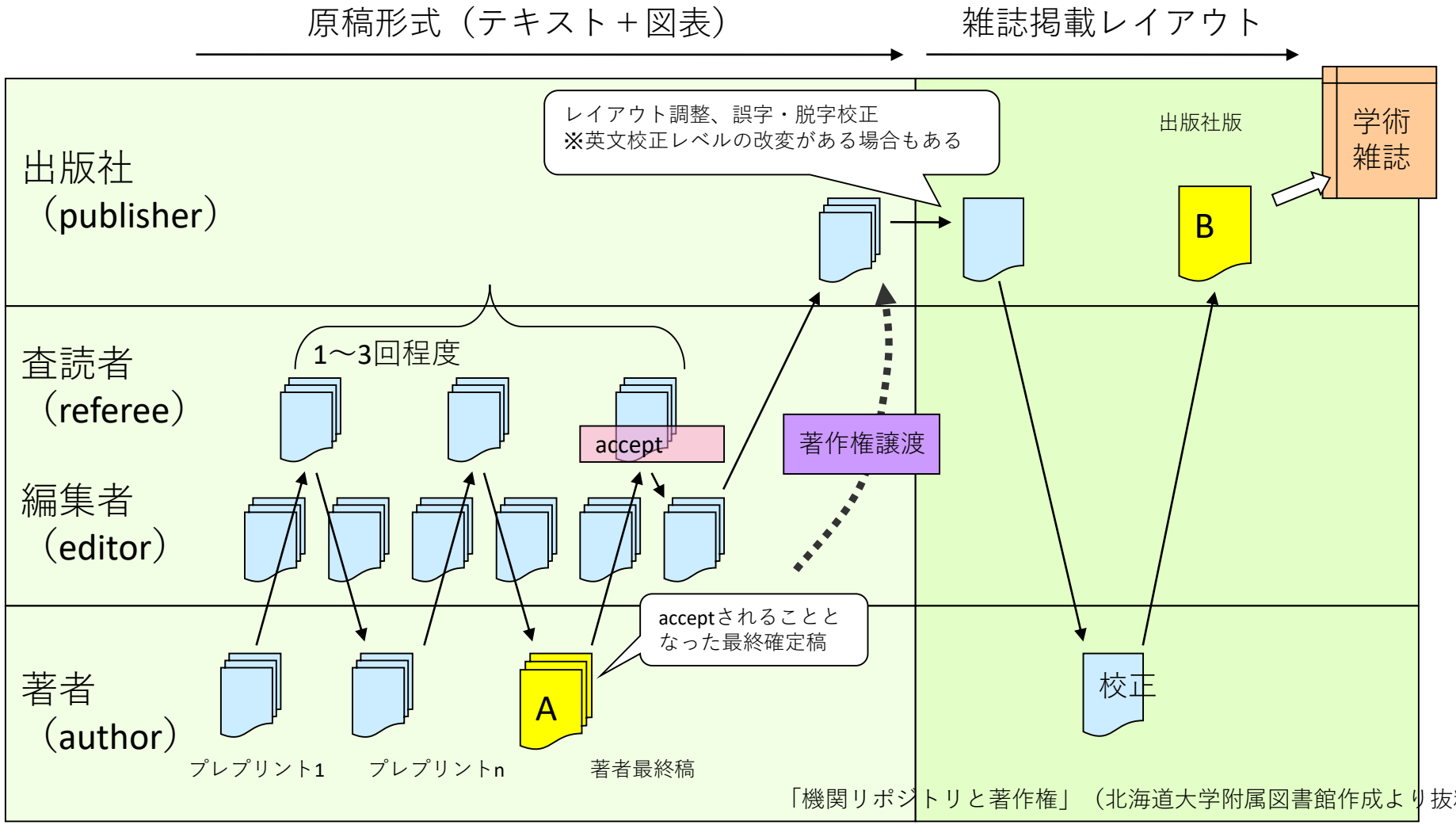
  平成30年（2018年）の法改正以前は50年
  https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/hokaisei/kantaiheiyo_chosakuken/1411890.html （参照：2020-11-22）

- 著作者の権利＝著作者人格権＋著作権（財産権）
- 著作物の利用＝著作権を持っている者（以下、著作権者）による許諾が必要

| 著作者人格権 | 著作権（財産権） |
|---|---|
| **譲渡不可** | **譲渡可** |
| ・公表権<br>・氏名表示権<br>・同一性保持権<br><br>※財産権を譲渡・放棄した場合も著作者人格権は著作者にあり、保護期間終了後も侵害してはならない | （リポジトリ登録に際して許諾が必要な権利）<br>・複製権　→リポジトリへの登録<br>・公衆送信権　→インターネット公開<br><br>※譲渡ができるので、著作者＝著作権者とは限らない。 |

学術雑誌に掲載された論文は、契約により学会・出版社に著作権が譲渡されることが多い
（契約が著作権法をオーバーライド（上書き）する）

## 学術雑誌論文の投稿～出版プロセスと著作権譲渡契約




「機関リポジトリと著作権」（北海道大学附属図書館作成より抜粋）

# 2. オープンアクセスに関係する著作権 （2）著作権譲渡契約と著者の権利

## 【著作権譲渡契約の例】

JOURNAL PUBLISHING AGREEMENTのサンプル抜粋（Elsevier社）

Assignment of copyright

I hereby assign to the Copyright Owner the copyright in the manuscript identified above (where Crown Copyright is asserted, authors agree to grant an exclusive publishing and distribution license) and any tables, illustrations or other material submitted for publication as part of the manuscript (the “Article”). This assignment of rights means that I have granted to the Copyright Owner the exclusive right to publish and reproduce the Article, or any part of the Article, in print, electronic and all other media (whether now known or later developed), in any form, in all languages, throughout the world, for the full term of copyright, and the right to license others to do the same, effective when the Article is accepted for publication. This includes the right to enforce the rights granted hereunder against third parties.

著作権を譲渡する

契約は論文が受理（accept）された時点から有効となる

出版と複製の権利

https://www.elsevier.com/__data/assets/pdf_file/0004/727600/JPA.pdf （参照：2020-11-22）

# 2. オープンアクセスに関係する著作権　(2)著作権譲渡契約と著者の権利

## 【著作権譲渡契約の例】

JOURNAL PUBLISHING AGREEMENTのサンプル抜粋（Elsevier社）

Author Rights for Scholarly Purposes (see 'Definitions' clause below)

I understand that I retain or am hereby granted (without the need to obtain further permission) the Author Rights (see description below and definitions), and that no rights in patents, trademarks or other intellectual property rights are transferred to the Copyright Owner.

The Author Rights include the right to use the Preprint, Accepted Manuscript and the Published Journal Article for Personal Use and Internal Institutional Use. They also include the right to use these different versions of the Article for Scholarly Sharing purposes, which include sharing:

- the Preprint on any website or repository at any time;
- the Accepted Manuscript on certain websites and usually after an embargo period;
- the Published Journal Article only privately on certain websites, unless otherwise agreed by the Copyright Owner.

著者の権利についての同意

著者の権利の詳細
（原稿の版、共有方法、エンバーゴ等）

電子ジャーナル購読契約書にも、
リポジトリ登録に関する条文が含まれていることがある

https://www.elsevier.com/__data/assets/pdf_file/0004/727600/JPA.pdf　（参照：2020-11-22）

# 2. オープンアクセスに関係する著作権 （3）著者の権利とグリーンOA

- 著作権が譲渡されるのは、査読が終了し、論文が受理（accept）された時点
- 学会や出版社に引き渡す前のバージョン（著者最終稿）の著作権は著者にあるのではないか、という論争

  →論争に結論が出たわけではないが、各出版社が譲歩して、著者が自身の著作物を利用できる範囲を定めるようになった。＝著作権ポリシーの公表

  →現在では多くの学会や出版社が、著作権ポリシーの条件にしたがって著者が自分の著作物を『機関リポジトリ』から公開することを認めている。＝グリーンOA

⇒著作権法より、学会・出版社など（著作権保持者）との契約や、学会・出版社が表明しているポリシー、著作権保持者が定めた再利用に関する意思表示（ライセンシング）が優先される

＝契約による著作権法のオーバーライド（上書き）

# ３．機関リポジトリと著作権

（１）リポジトリ登録時に必要な著作権処理の概要

（２）リポジトリ登録同意書の作成

（３）学会・出版社ポリシー確認ツール

（４）学会・出版社への問い合わせ

（５）共著者の許諾について

# 3. 機関リポジトリと著作権 （1）リポジトリ登録時に必要な著作権処理の概要

## A) 著作者が著作権を持っているもの

- 機関リポジトリからの公表について同意を得る（同意書）

＊共著者全ての同意が必要

## B) 著作権を譲渡した学会・出版社から許諾が得られるもの

- 学会・出版社からポリシーが公表されている場合はその条件に従う

（条件の例）登録可能な版（出版社版 ／査読後著者版／査読前著者版）、エンバーゴ

- ポリシーが非公表の場合は個別に同意を得る（同意書）

## C) 機関リポジトリからの公表を義務とする規定があるもの

- 学位規則でインターネット公表が定められた博士論文
- 投稿規定で機関リポジトリからの公表を定めた紀要論文
- 各機関が定めるOAポリシーで公表を義務としているもの

＊いずれも全ての著作権保持者の同意が得られた場合

## D) 著作権者が分からないもの

※著作権保持者が判明した際に補償金の支払いが必要

※文化庁の裁定制度を利用する場合は、事前に補償金を支払う（国や地方公共団体等以外の機関の場合）

# 3. 機関リポジトリと著作権　(2)リポジトリ登録同意書の作成

- 「機関リポジトリを使ったインターネット公表」について同意を得る

**＜同意書のサンプル＞**

一般的な宛名のパターン
・登録申請者用の書式：
　リポジトリ管理者宛て
・共著者その他用の書式：
　登録申請者宛て

○○様

私は以下の著作物につきまして、○○リポジトリを使って無償でインターネット公表することに同意します。

≪対象コンテンツの情報（論題、掲載誌名、出版年等）≫

○年○月○日　　本人署名

- 機関リポジトリからの公開に限定することで、著作物をリポジトリの運用方針に基づいて取り扱うことを約束する
- 著作権（財産権）を譲渡してもらう必要はない
- 本人の意思であることが確認できれば、押印やサインがなくとも構わない。（メール等で確認してもよい）

# 3. 機関リポジトリと著作権　(3)学会・出版社ポリシー確認ツール

【学会・出版社ポリシーの確認業務フロー】

**①公開許諾ポリシー確認ツールで概要を確認**

- 海外出版社

  SHERPA/RoMEO

  https://v2.sherpa.ac.uk/romeo　（参照：2020-11-22）
- 国内学協会

  SCPJ（学協会著作権ポリシーデータベース）

  https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=133　（参照：2020-11-22）

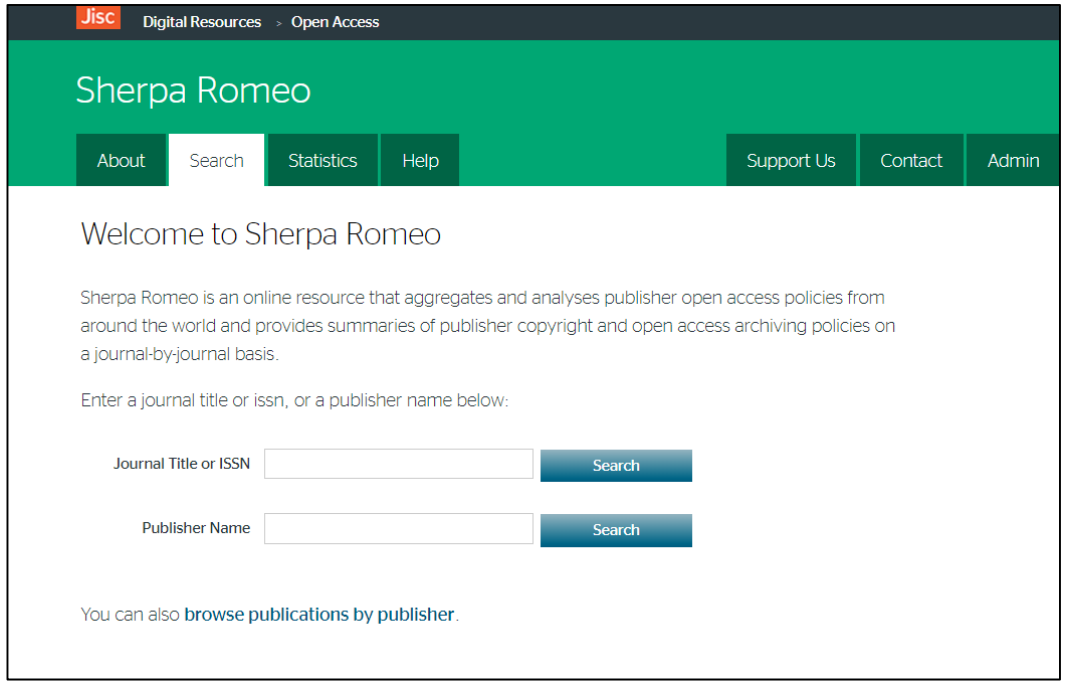
**②学会・出版社サイトでの最終確認**

- Guide for author、Submissionといったページに記載がある
- ウェブサイトで確認できない場合は、直接問い合わせる

# 3. 機関リポジトリと著作権　(3)学会・出版社ポリシー確認ツール

## SHERPA/RoMEO（海外出版社）

https://v2.sherpa.ac.uk/romeo　（参照：2020-11-22）




## SCPJ（国内学協会）

https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/?page_id=133　（参照：2020-11-22）



# 3. 機関リポジトリと著作権 （4）学会・出版社への問い合わせ

- 著者に代わって問い合わせしていることを伝える
  →著者が直接問い合わせる方がうまくいくことも
- 業務委託している場合でも、差出人はリポジトリを管理している機関名で
- 連絡先が分からない場合は、公開を断念するしかない

＜文例①（国内）＞＊北海道大学附属図書館の例

日本河川敷学会　御中

突然のメールで失礼いたします。北海道大学附属図書館の杉田と申します。
本学では所属の研究者による著作論文や学会発表資料等のアーカイブ化を進めております。
HUSCAP:北海道大学学術成果コレクション
http://eprints.lib.hokudai.ac.jp

このほど、本学工学研究科の豊平梓先生から、貴会発行誌掲載の以下の研究論文をご寄贈頂きました。
豊平梓「矢作酒匂ダムの放流間隔の変遷」『河川敷研究』第4巻6号（2003）
つきましては、この文献を私どもの「HUSCAP:北海道大学学術成果コレクション」に収録・公開させて頂きたく、ご許諾をお願いいたします。収録に際しては豊平梓先生ご本人の保有する原稿段階のファイルを使用する予定です。

恐れ入りますが、上記論文の本学HUSCAPへの収録のご許諾の有無につきましてこのメールへの返信にてご一報いただけるようお願い申しあげます。また、その他条件等ございましたら、併せてお知らせ頂ければと思います。
以上，宜しくお願いいたします。

# 3. 機関リポジトリと著作権 （4）学会・出版社への問い合わせ

＜文例②（海外）＞＊SHERPAに2020年6月リニューアル前まで掲載されていた文例

Requests to publishers

Where there is no explicit permission given to mount full-text on a repository, it is often worthwhile writing or emailing directly to the publisher. This template can be used to form a letter to a publisher requesting permission to mount material on a repository on behalf of an academic author.

Dear [insert name of publisher's rights manager or similar],

I am contacting you on behalf of Professor/Dr [insert name of author] who is a contributing author to one of your journals.

Professor/Dr [insert name of author] is a member of staff here at the University of [name of institution] and would like to deposit the full text of the following article(s) from [insert journal name] in the University's institutional repository. Professor/Dr [insert name of author] has authorised me to do this on [his/her] behalf and to contact you to seek permission to do this.

Article:

[authors names] , [date], [title]

[journal name], [volume or number], [pages]

The institutional repository is a not-for-profit service for our academic authors, providing access to the full-text of their publications. Full bibliographic details are given for each article, including the journal of original publication, etc.

If possible, it is preferred to archive the finalised pdf version as it appears in print. The pdf version has an advantage over mounting the author's own version, in that it maintains consistency in appearance of the article wherever it is read. This also maintains a closer association of the article with the Journal, through the header-title and journal house-style.

I would be grateful if you could contact me to give your permission for including this article and to pass on any conditions that are associated. If it would be possible to use the published pdf version of the article for this purpose, then please confirm this.
Thank you for your attention with this and I look forward to hearing from you.

Some publishers insist on the author writing or emailing them directly to request permission to mount eprints in a repository. In such cases, it may be useful to provide the author with a template such as the one below to help them construct their request.

Dear [insert name of publisher's rights manager or similar],

I am writing to ask permission to mount a copy of an article of mine which was published in one of your journals in my institution's repository.

The article is:

[authors names] , [date], [title]

[journal name], [volume or number], [pages]

The institutional repository is a not-for-profit service for academic authors, providing access to the full-text of their publications. Full bibliographic details are given for each article, including the journal of original publication, etc.

If possible, I would like to use the finalised pdf version as it appears in print. The pdf version has an advantage over mounting my own version, in that it maintains consistency in appearance of the article wherever it is read. This also maintains a closer association of the article with the Journal, through the running headers and the journal house-style.

I would be grateful if you could contact me to give your permission for including this article and to pass on any conditions that are associated. If it would be possible to use the published pdf version of the article for this purpose, then please confirm this.

Thank you for your attention with this and I look forward to hearing from you.

# 3. 機関リポジトリと著作権 （5）共著者の許諾について

*Q. リポジトリで論文を公開する場合は、共著者すべての許諾が必要でしょうか？*

A．共有著作物の権利を行使するには、権利者全員が合意しないとできませんが、各共有者は、正当な理由がない限り同意を拒んではいけないことになっています。

黒澤 節男『機関リポジトリと著作権 Q&A』広島大学図書館,2013.3 より

http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00023065 （参照：2020-11-22）＊平成30年著作権法改正前

※上記の質問以外にも、参考になる例が紹介されています。

★法律上は、主たる著作権者（登録申請者）の許諾さえあれば公開可ということになるが、登録申請者に共著者の同意も取り付けておいてもらうのが一般的。道義的問題として、登録申請者に判断していただく必要がある。

# 4. ライセンシング

（1）ライセンシングとは

（2）CCライセンス

# 4. ライセンシング　(1)ライセンシングとは

- コンテンツの再利用の範囲を明示したもの
  →再利用されやすくなる
- 国際的な表記ルール（例：CCライセンス）を使えば、著作権ルールが異なる国であっても、共通の方法で意思表示ができる。

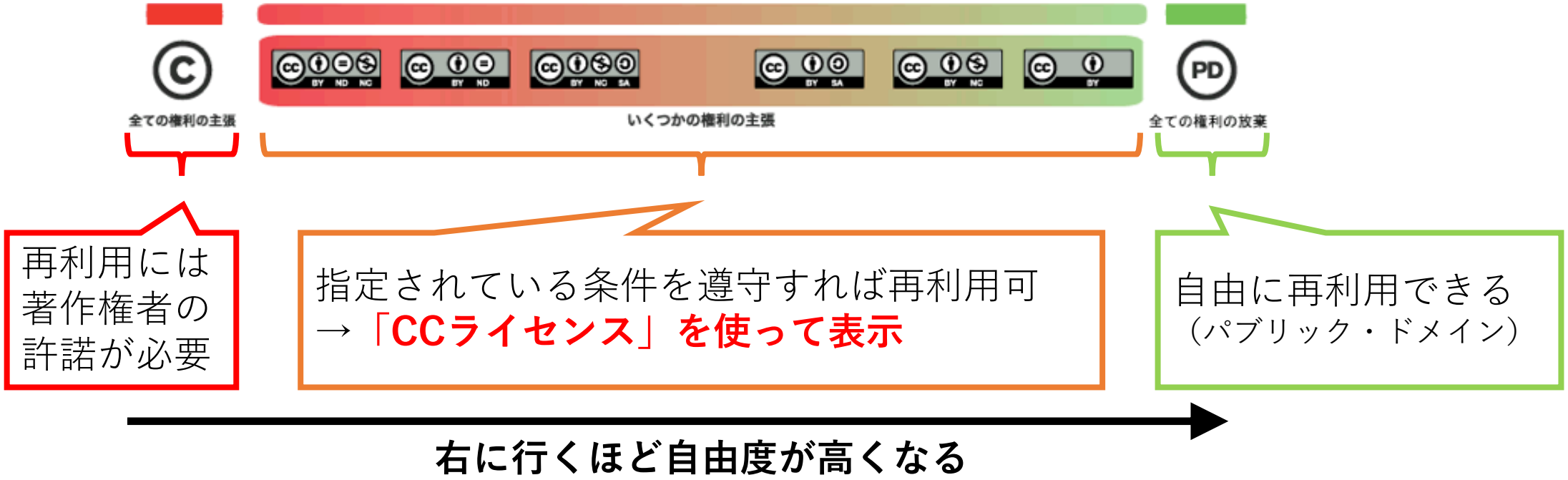
# 4. ライセンシング　(2)CCライセンス

## 【CCライセンスとは】

- クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの略称

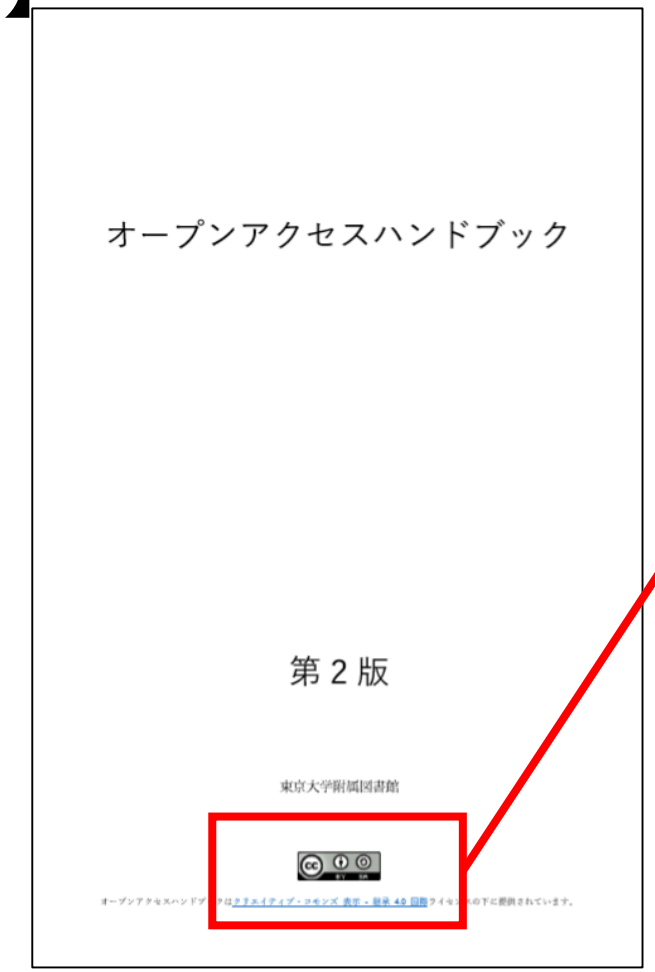
→ Creative Commons License Japanより

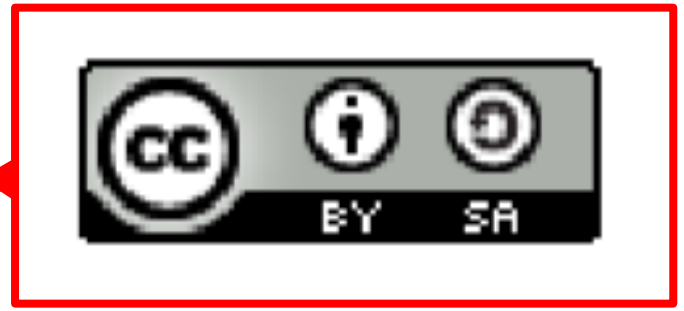
https://creativecommons.jp/licenses/#licenses（参照 2020-11-22）



# 4. ライセンシング　（2）CCライセンス

## 【CCライセンスの使用例】



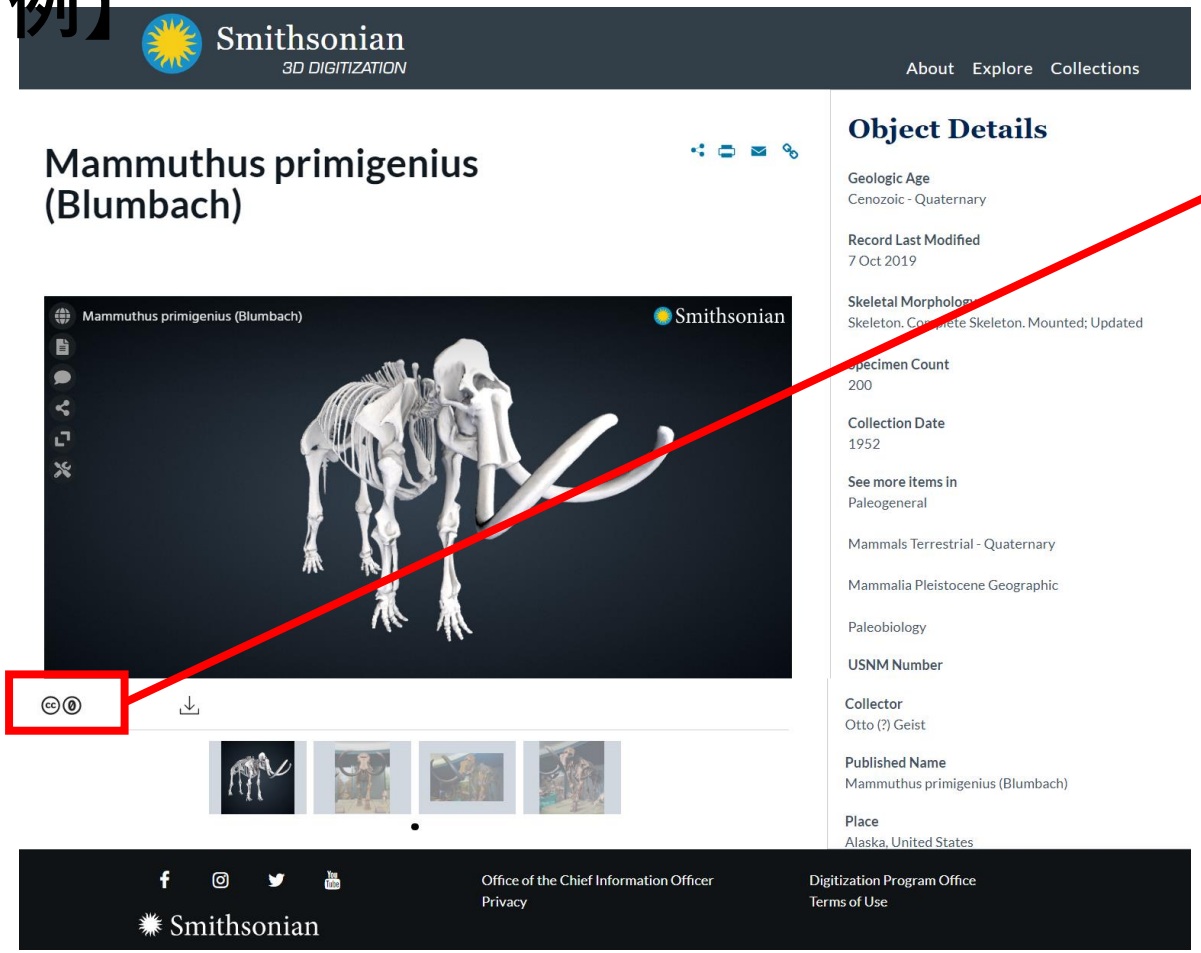

### CC BY-SA（表示 - 継承）

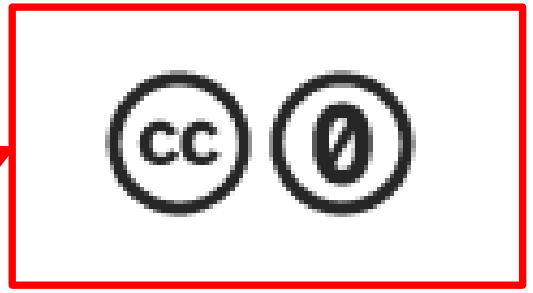
- BY：クレジット（著者名・タイトルなど）を表示すること
- SA：使用した場合は、同じCCライセンスで公開すること

**尾城 孝一ほか「オープンアクセスハンドブック 第2版」**
東京大学附属図書館, 2017
http://hdl.handle.net/2261/72694　（参照：2020-11-22）

# 4. ライセンシング　(2)CCライセンス

## 【CCライセンスの使用例】



**CC 0 （ゼロ）**

- 0：いかなる権利も保有しない

**Smithsonian Open Accessより**
https://www.si.edu/openaccess （参照：2020-11-22）

# ５．著作権の動向に関する情報源の紹介

# 5. 著作権の動向に関する情報源の紹介

- Webサイト（著作権に関する講習会やセミナー情報も入手できる）
  - 文化庁（著作権政策）　https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/
  - 著作権情報センターCRIC　https://www.cric.or.jp/
  - カレントアウェアネス・ポータル　https://current.ndl.go.jp/
    ＊メーリングリストの登録やTwitterのフォローも可
  - STI Updates　http://jipsti.jst.go.jp/johokanri/list/?mode=1
- メーリングリスト
  - LIBLICENSE　http://liblicense.crl.edu/
    OAに限らず、電子ジャーナル契約なども含む学術情報流通におけるライセンスに係る問題が広く議論されている
- 雑誌
  - 情報の科学と技術（ISSN:09133801）
    ＊オンライン版（https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jkg/-char/ja）は、発行から6ヶ月後にOA化
  - コピライト（ISSN:09129782）

（上記リンクはいずれも参照：2020-11-22）

これで本稿は終わりです。